

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 01 誌上ゼミ
地域の健康課題を改善へ導く
事業計画を実践的に学ぶ
- 05 学問へのいざない
「英語のスキルと文化の違い」を学ぶ
「健康のための運動の意義」を学ぶ
- 07 特集
2021年度宮城学院女子大学後援会特別企画
「保護者懇談会
（待降節(アドヴェント)のキャンパスで）」
- 09 CAMPUS NEWS
- 13 My way MG way
卒業生の仕事場訪問
- 15 サークル紹介
チアリーディング部／写真部

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支援、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

サークル紹介 01

チアリーディング部 (RED BULLETS)

- 部員数: 5名
- 活動日: 火・木・金曜日
- 活動場所: 大学体育館
- Instagram: @mgredbullets

練習は楽しく真剣に

ダンスや側転、ロンダート(ひねりを加えた倒立回転)、スタunts(人が人の上に乗ってアクロバティックな動きをする)など、チアの演技は難しいと感じる方も多いと思いますが、レッドバレッツのメンバーのほとんどは未経験者です。日々の練習でたくさんの動きができるようになります。8月には東北チアリーディング選手権大会のチアリーディングスピリッツ演技競技で優勝しました!大学からのチャレンジで、ここまで上達できるんです。

元気を与えるチアのパワー

メンバーは学年や学科問わず仲が良いです。練習時刻に遅刻するメンバーには、練習風景の写真を送ったりして、早く来たくるように仕向けています(笑)。

チアのモットーは「元気・勇気・笑顔」。観ている方に笑顔を届け、希望や勇気につながるように、まずは自分たちが楽しんでパフォーマンスすることを心がけています。



優勝した東北チアリーディング選手権大会



卒業する4年生と記念撮影



部長
加藤 水花さん
(生活文化
デザイン学科1年)

サークル紹介 02

写真部

- 部員数: 12名
- 活動日: 不定期
- 活動場所: 学生センター4階(部室・暗室)
- Twitter: @mg_photo_club

人と分かち合える写真の魅力

活動のメインは年に4回ある写真展に向けた作品づくりです。自分が伝えたいことや、表現したいことを考えて作っていくことに魅力を感じます。基本的には個人作業ですが、写真展では自分の作品への感想をいただいたり、他のメンバーの作品に刺激を受けたりするので、人と共有できるのが写真の良いところです。

昨年は写真展をオンラインで開催しました。遠方の方にも見ていただけたので、新しいことにもどんどん挑戦していきたいと思っています。

見慣れた景色が新鮮に写る

12月には新入部員の顔合わせを兼ねた学内撮影会を実施しました。メンバー全員で同時刻に撮影を行い、後日印刷した写真を持ち寄り発表し合ったところ、どの写真もそれぞれの個性が出ていて、気づけていなかったキャンパスの魅力を発見することができました。写真の面白さや楽しさを改めて感じた出来事でした。



新人展は雑貨屋さんの
フリースペースで開催



学内撮影会での1枚



部長
門間 海咲さん
(生活文化
デザイン学科2年)



地域の健康課題を改善へ導く 事業計画を実践的に学ぶ

PDCAサイクルに基づいた栄養マネジメントを実践する

**地域の健康づくりに貢献する
研究テーマを設定**

伊藤 このゼミは、地域の健康課題をアセスメントし、解決のための事業計画を考え



伊藤 佳代子 准教授

います。親が嫌いな食べ物は家庭の食卓のぼりにくいので、その食経験を積んでいない子どもも同じ食べ物を嫌いになってしまふという仮説の検証と、その傾向を防ぐ食育の方法を考察していきたいと考えています。

芳賀 アンケート調査は既に終わっているのですが、データからどんな結果が見えてくるのか楽しみです。

星 大学生になるまで好き嫌いがかなり多かった私自身の体験にも重なるので、ぜひ調べてみたいと思いますこのテーマを選びました。

長谷川 私は女子大生の排便状況と生活習慣の関連について調べています。学内の3・4年生にアンケートを取り終えたところなので、これからデータを入力・集計し、解析していきます。

伊藤 それぞれ異なる対象とテーマで2〜4名のグループに分かれ、研究を進めます。公衆栄養は「地域の健康づくり」を

る、公衆栄養学という分野について学んでいます。今日集まっていた3年生の皆さんは、来年度の卒業研究に向けて自分たちが健康課題とするテーマを決め、グループごとにアンケート調査を行っているところなんです。すでに調査が終わり、これからデータをまとめるグループもありますね。それぞれ、どのようなテーマで研究を進めているのか紹介してください。

内海 私は仙台村田製作所との連携活動の一環として、中食（惣菜やお弁当など家庭外で調理・加工されたものを購入して食べる形態）をテーマに研究を進めています。従業員の方々を対象としたアンケートで

目的としているので、アプローチの対象はとて幅広いんです。対象によって異なる健康課題にどう介入して改善に導くか、皆さんにはこれから1年をかけて実践的に学んでももらえたらと思います。

連携活動や調査・発表を通じて得られた学び

伊藤 これまで、連携協定を結んだ仙台村田製作所との取り組みで社員食堂の献立を提供したり、宮城県の「みやぎベジプラズメニユー」にレシピを応募し商品化されるなど、色々なものに取り組んできました。先輩たちの活動を受け継ぎながら、今年度は仙台市の「健康お役立ちレシピコンテスト」に参加しましたね。公衆栄養学は対象が幅広いところが特徴の一つなので、皆さんには自分の興味・関心に沿った研究テーマを掘り下げてもらいたいと思っています。本格的なゼミ活動は始まったばかりで

は、働き盛り世代のメタボリックシンドロームや塩分摂取量などの課題に対し、どんな介入を行うと解決できるのかを考えていきたいと思っています。

平塚 私は、内海さんと同じく仙台村田製作所の皆さんを対象として、生活習慣をテーマに研究を進めています。先輩が取り組んだ同テーマの研究内容をもとに、私たちが考案した献立の提供や、栄養価などの情報を載せたリーフレットの配布などどのような変化が見られたかを調査したいと思っています。

及川 私と芳賀さん、星さんは同じグループで、親子の嗜好の関係性について調べて



内海 楓さん

すが、得られた学びや発見はありましたか？

及川 小学生に向けたアンケート作りはとても勉強になりました。どんな結果を得たいのか予想を立てながら設問を考えるのですが、いざアンケートをとってみるとなかなか思うような結果が得られなかったり…。

芳賀 私も、アンケート調査はとても学びが多かったです。予想していなかった回答から、新たに気づくことがたくさんありました。約300名分のデータを入力する作



生活科学部 食品栄養学科
伊藤 佳代子 准教授

【生活科学部 食品栄養学科3年生のみなさん】

内海 楓さん
平塚 真優さん
及川 朋香さん
芳賀 清香さん
長谷川 咲恵さん
星 莉菜さん

※撮影時のみマスクを外しました。



平塚 真優さん

業は少し大変でしたが、伊藤先生の授業でパソコンを使ったデータ入力から集計・解析まで学んでいたのので、スムーズに進めることができました。

内海 仙台村田製作所を担当する管理栄養士の方と話をする機会をいただけたことがとても貴重でした。食材のコストや調理の手順、どうすれば残食率が減らせるかなど、勉強になることばかりです。

平塚 実際に私たちが考えた献立では「野菜の量が多すぎて器に入らない」「付け合わせを残されそう」という指摘を受けまし



及川 朋香さん

た。対象者の嗜好や調理現場のオペレーション、残食率を考慮して献立を作らなければいけないだと気付きました。

伊藤 仙台村田製作所は20〜40代の男性が多いので、こってりしたもののや味の濃いものが好まれる傾向にあります。そこで野菜や魚を選んでもらうにはどうすればいいか、もちろん、コスト面も考慮しなければなりません。内海さんたちのグループは実践的に学びを深めていますね。

長谷川 私は研究を進めるにあたり、文献などから大学生と食生活の関係を学びま



芳賀 清香さん

した。大学生は一人暮らしを始めると朝食欠食や食事バランスの乱れが起こりがちになります。今回のアンケートでは、居住形態のほかに、家族の中で誰が主に調理を担当しているのかといったことも聞いているので、それらの項目との関連をしっかりと研究していきたいです。

星 私は、プレゼンテーション力が身につけてきたと感じています。管理栄養士は「人に伝える」スキルも大事だと思っているので、ゼミ活動を通じてもっと成長できたらと考えています。



長谷川 咲恵さん

伊藤 皆さんは、調査研究も発表も真面目に取り組んでいますね。一つひとつの課題に誠実に向き合うことは、将来どんな職業に就いても役立つ力だと思います。

ゼミでの経験を糧に 将来のビジョンを描く

伊藤 ゼミ活動は実践と評価の繰り返しです。この積み重ねによって管理栄養士としての実践的なスキルを身につけてもらえればと思っています。皆さんが将来目指して



星 莉菜さん

いる仕事や、今後の目標について教えてください。

星 私はずっと続けていたソフトテニスをきっかけにスポーツ栄養に興味を持ったので、将来はスポーツ栄養に関わる分野の仕事ができたかと思っています。伊藤先生はいつも親身になって指導してくださって、相談もしやすい第二のお母さんのような存在。このゼミに入ってよかったですと感じます。

内海 私は、具体的にはまだ決めていないのですが、今回の研究で仙台村田製作所の

方と関わったことで、働く人の健康をサポートできるような仕事をしたいと強く思いました。そのためには今取り組んでいる研究の分析や考察をしっかりと行っていきたいです。

平塚 仙台村田製作所の昼食献立を提供して、アンケートをもとに確かな結論を導き出すことが当面の目標です。将来は行政の管理栄養士や栄養教諭を目指したいと考えているので、現在行っている研究活動は間違いなく今後の糧になると思っています。周囲から頼りにされる管理栄養士になれるよう、学びを深めていきたいです。

長谷川 4年生になると、就職活動や国家試験、卒業論文などでとても忙しくなるので、しっかり両立できるように頑張りたいです。将来は地域の健康課題の解決に最適な提案ができる、人々に寄り添った管理栄養士になりたいと思っています。

及川 アンケート結果をもとに、子どもた



ちへの食育のアプローチ方法を見つけ出したいです。将来は管理栄養士として、人と関わる仕事ができたらと思っています。

芳賀 私は子どもの食育に関わる仕事に就きたいと思っているので、親子の嗜好の関係性から見えてくる食育のあり方について真剣に向き合い、考えていきたいです。

伊藤 依然として続くコロナ禍で、学生の皆さんは様々な活動が制限され、苦勞することも多いと思います。教員や学生同士で交流する機会もなかなか設けることができず、私自身寂しく思っています。そんな中でも自分たちで課題を見つけ、自主性を持って研究を進めている姿はとても頼もしく、日々成長を感じます。公衆栄養学の分野に興味を持って当ゼミに入ってきた皆さんなので、ぜひ自分のやりたいこと、興味のあることをしっかりと研究し、満足のいく卒業論文を仕上げてもらえたらと思います。





「健康のための運動の意義」を学ぶ

教育学部 教育学科 青木 拓巳 助教



睡眠と身体活動の
関係性を主軸に研究

スポーツ科学の道に進んだのは、先に同系統に進学していた兄や、豊富な知識で指導してくださった高校時代の部活の顧問の先生に影響を受けたからです。現在の専門は、極めて身近な生体現象のひとつである「睡眠」と身体活動の関係性についてです。特に子どもの睡眠に着目し、子どもの睡眠に及ぼす至適な身体活動などについて研究しています。人々の運動不足が世界的に問題視されて

睡眠と身体活動の
関係性を主軸に研究

いる時代、活動的な日常を送ることで睡眠にどのような影響をもたらすか、健康増進につながるのかということ調査しています。

ゼミでは主に、スポーツや保健体育などの分野からテーマを決め、調べたことを資料にまとめて発表を行います。質疑応答やディスカッションを通してみんなで知識を深めていきます。「外国と日本の体育のあり方の違い」や「燃え尽き症候群について」など、それぞれ個性あるテーマで研究活動を進めています。

学生の興味関心を尊重し
切磋琢磨し合うゼミ活動

学生へのアプローチで心がけていることは、私が一方的に何かを教えるのではなく、自ら湧き上がってくる疑問や純粋な興味を大事にするということです。研究のテーマ探しでも、

クが少なくなること、そして日本にいる外国人たちが全く違う文化のもとで育ってきたという多様性を理解してもらえたら、と思います。準備には長い時間がかかりますが(笑)、大好きな授業です。

これからも新しい分野の研究を進めていきたい

現在私は、Taboo Word (タブワード) についての研究も行っています。いわゆる「悪い言葉」ですが、近い友人間ではそういった言葉を使わないと、仲良くなれなかったりしてしまうものです。間違っても使わない「悪い言葉」を、英語を母語としない学習者がどのタイミングで習得するのか。これからは研究者として、ほかの人が踏み込まない分野にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

本学の学生は、とても真面目で、何事にも真剣に取り組んでくれる印象があります。研究発表は学生たちが主体となって進めるのですが、春頃と比べて、集める情報の質や資料作成のスキル、発表時の立ち振る舞いなどが格段に成長していると感じます。また、発表後は必ず全員で質疑応答やフィードバックを行うので、互いにいい刺激を与え合っているようです。一人ひとりの研究内容が充実することにより、全員の学びが深まっているのだと思います。これから4年生は卒論や教育実習、教員採用試験など、ますます忙しくなりますが、ゼミ活動によって様々なスキルが磨かれた頼もしい学生たちなので、きつと頑張ってくれると信じています。

Profile

愛知県出身。2021年に同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程(後期課程)修了。2014年にジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社にて就職。その後、2018年に日本学術振興会特別研究員を経て、2021年4月から現職。○信条は「毎日必ず新しいことをする」

私のおすすめ本

もっとなつくとく
使えるスポーツサイエンス
編集：征矢 英昭、本山 貴、石井 好二郎

スポーツサイエンスに関わる身近な疑問を、一問一答形式で紹介している一冊。編集者の一人である石井先生は私の学生時代の恩師でもあり、誰もが疑問を持つトピックについて、学術的にとてもわかりやすく解説してくれています。



これが学びのツボ!

まずは自分自身の興味・関心や、疑問を大切にしてください。ゼミ活動などで他の学生と関わるうちに、また新たな興味・関心が生まれ、学びが広がっていくと思います。



「英語のスキルと文化の違い」を学ぶ

学芸学部 英文学科 グリーン・ジェニファー助教

アメリカの生活と文化の違い
授業から多様性を学んでほしい

私は、英語のライティング、スピーキング、リーディングアクティビティに加え、「アメリカの生活と文化」という授業を担当しています。

この授業では「アメリカについての間違った知識」や「アメリカで実際に起こっていること」について教えています。例えば、日本人はアメリカ人が土足のまま家の上がると思っていますが、実は、アメリカ人の70%以上は家の上がるときに靴を脱いでいます。特に、私の出身地であるアラスカやハワイでは100%脱ぎますね。また、アメリカの文化だと思っ



ていることが日本の文化だったりすることもありますが。皆さんはクリスマスにフライドチキンやケーキを食べることが多いと思いますが、実は

それも日本の文化なのです。こういった日常の誤解から授業を展開していく、アメリカのダークな部分、貧富の差やホームレス、人種差別、それに少しタブーに思われがちな第二次世界大戦や真珠湾攻撃、広島や長崎の原爆投下など、日米の間に起こったことも取り上げていきます。90分間英語で授業を行います。英語のスキルアップを目指す授業ではないので、シンプルな英語と写真のプレゼンテーションで進めています。この授業を通して、学生たちのアメリカでのカルチャーショック

クが少なくなること、そして日本にいる外国人たちが全く違う文化のもとで育ってきたという多様性を理解してもらえたら、と思います。準備には長い時間がかかりますが(笑)、大好きな授業です。

これからも新しい分野の研究を進めていきたい

現在私は、Taboo Word (タブワード) についての研究も行っています。いわゆる「悪い言葉」ですが、近い友人間ではそういった言葉を使わないと、仲良くなれなかったりしてしまうものです。間違っても使わない「悪い言葉」を、英語を母語としない学習者がどのタイミングで習得するのか。これからは研究者として、ほかの人が踏み込まない分野にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

Profile

アメリカ・アラスカ州出身。オックスフォード大学教育学科教育用言語学修士。2020年に「2020 Michele Steele Best of JALT」を受賞。教員一家の家庭に育ち、幼いころから言語が大好きだったという。○信条は「Be kind, but be fair.」

私のおすすめ本

Global English
著：Nicola Galloway

英語のネイティブはアメリカ、イギリス、カナダだと思われていますが、例えばインドやフィリピンも英語ネイティブの国です。グローバル化が進む中、いろいろな英語を知った方がいいと思います。この本を選びました。日本はアジアの人たち、特に中国、韓国で話されている英語を知るといいと思います。



これが学びのツボ!

翻訳アプリなど、便利なものがあふれる現代ですが、それでも外国語を学ぶということはとても素晴らしいことです。言語はみなさんの世界を拡げてくれるツールになりますよ。

音楽科によるミニコンサート



キャリア支援課による個別相談



学科別クラス懇談会



2021年度

宮城学院女子大学後援会特別企画

保護者懇談会

アドヴェント
～待降節のキャンパスで～

大学後援会では、例年5月に本学キャンパスにて総会を開催し、様々な企画を用意して保護者の皆さまをお迎えしていますが、昨年度より2年間にわたり新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止したため、今回は特別企画として開催しました。

2021年12月18日(土)



当日のキャンパスは雪景色

保護者の皆さまには現代ビジネス学科の産学連携商品である「古今東北 しっとりバターかすていら」をお持ち帰りいただきました。



古今東北
しっとりバターかすていら



高橋博会長による開会挨拶

Campus News

授業やサークル、学外活動など、学生たちの活躍や大学の取り組みをレポートします。



建築家・伊東豊雄氏と末光学長の対談イベントを開催

本学附属森のこども園の園舎完成から5年の節目に、園のデザイン・設計を担当された建築家の伊東豊雄氏と末光眞希学長による対談イベントを開催しました。学長対談企画は、2021年2月に実施した哲学者の野家啓一氏（東北大学名誉教授）に続き2回目となります。今回は、伊東氏の建築と本学における教育との共通項を見出す内容となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、大学では対面授業の実施に制限が加わり、学生や教員が集い語らう機会が少なくなりました。伊東氏が専門とする建築も、人が集まる場所をいかに作り出すかということに主眼を置いており、大学の現状に理解を示されました。伊東氏は一方で、人間は自然の一部であることを再認識することにより、自然との調和を強く意識する機会になったとも話され、自然豊かなキャンパスに立つ本学ならびに森のこども園の環境に話題が広がりました。大学では偶然性が大切と学長が述べたのを受け、伊東氏は「緻密な構造や外観のデザインというよりも、自然環境を取り入れ、曖昧さや人間の身体性にも配慮した建築を設計したい」と話されました。対談の最後には、末光学長が弾くピアノ伴奏に合わせて、この春に卒園を控えた園児が「こども讃美歌」の一曲を披露し、元気な歌声が会場に響き渡りました。この対談を収録した動画は本学ウェブサイトにて公開を予定しています。ぜひご覧ください。

東日本大震災から11年 学生たちは語り継ぐ立場へ

震災当時小学生だった学生たちは、それぞれの方法で当時を語り継ぎ、備えを広める活動に取り組んでいます。

学生有志が取り組んでいる紙芝居プロジェクトは、2021年7月に行われた石巻市での研修会をきっかけにスタートしました。研

未来の子どもたちへのメッセージとして紙芝居制作することとし、2022年3月の完成を目指して丁寧な制作を進めています。

災害食レシピの普及を図る学生団体「Food and Smiley!」（通称FAS）は、コロナ禍で料理教室やイベントの中止が相次ぐなか、新しい試みとしてYouTubeチャンネルを開設し、レシピや手順を動画で紹介しています。さば缶や豆腐を使った「巻かない!? さばの和風ロールキャベツ」や「アルファおはぎ」など、万が一のときにも気持ちがあはつとするようなレシピが満載です。備蓄した食品を定期的に消費し、その分を買い足す「ローリングストック」にも役立ちます。ぜひQRコードよりご覧ください。



FASチャンネルの動画のひとつ



人間文化学科 復興の想いを込めたキャンドル・プロジェクト

キャンドル・プロジェクトは、人間文化学科の学生たちで構成している人間文化学会が企画し、2021年12月に実施しました。東日本大震災の記憶を風化させないという想いや、復興への願いが込められています。

宮城県沿岸部を訪れた学生たちの報告会のあと、仙台市泉区に店舗を構えるLamp of Hope様にご協力いただき、モザイク・キャンドルやボタニカル・キャンドルの制作を行いました。学科の学生だけでなく宮城学院高校の生徒たちとともに総勢60名で制作したキャンドルは、礼拝堂前にひとつひとつ並べられ、学生・生徒・教職員が祈りを捧げました。



取材を受ける紙芝居プロジェクトの学生

修会は保育現場における防災について考えを深める目的で実施し、その一環として震災の遺族の方々による講話がありました。市内には、園バスが津波にのまれ、園児5名と職員1名が亡くなった幼稚園があります。学生たちは、震災の教訓や、

蒲公英倶楽部が 丸森町の学校資料展示に尽力

宮城県内の学校日誌の調査に取り組む学生団体・蒲公英倶楽部が、人間文学学科・大平聡教授の指導のもと、丸森町の学校資料のパネル制作と展示作業を行いました。

丸森町は2022年度、小学校が8校から2校に統廃合されます。大平教授と蒲公英倶楽部の学生たちは、児童や住民が学校の歴史を知る機会にしようとして、日誌に残された印象的な出来事をパネル化するため、閉校する6校の学校日誌を精力的に読み解きました。筆甫小の日誌には災害の記録や地域のインフラ整備についての記述も見受けられたそうです。また、金山小では2019年の台風19号の浸水被害によ

り日誌や写真に損傷を受けました

が、大平教授が過去に授けられたデジタルカメラに記録していたデータを復元資料としてパネル化

しました。2月に行われた大内小と耕野小の閉校展には、地域住民や卒業生などが訪れ、慣れ親しんだ学校の歴史に新鮮な想いを抱いていたようです。



小齋小の学校日誌



大張小での作業

現代ビジネス学科・石原ゼミが、 令和3年度地産地消等優良活動表彰を受賞

現代ビジネス学科・石原慎士教授のゼミナールと水産加工業・水野水産株式会社（石巻市）が、令和3年度地産地消等優良活動表彰の東北農政局長賞を受賞しました。この表彰は、全国各地のそれぞれの立地条件を活かした創意工夫のある様々な地産地消及び国産農林水産物・食品の消費拡大における優れた取り組みに対して贈られるものです。

石原ゼミと水野水産はこれまでに、農林水産省主催の「フード・アクション・ニッポンアワード2019」に出された「牡丹焼きちくわ」や、ご当地おでんとして各種メディアに取り上げられている「石巻おでん」な

ど、石巻地域や宮城県などの地域性を生かした商品を生み出し、産業復興に寄与してきました。

3月には、金華さばをふんだんに使用した「金華あげさば」や石巻の食文化を生かした「海と畑のナゲツト」などの新商品も発売される予定です。今後の活動にご期待ください。



※撮影時のみマスクを外しました。

生活文化デザイン学科 フォトコンテスト「うんざりする景色Ⅲ」

今回で3回目を迎えた生活文化デザイン学科主催のフォトコンテストでは、高校生を対象に「うんざりする景色」をテーマとした作品を募集しました。昨年はコロナ禍の日常や発見、記録的な積雪を取り上げたものが多く見受けられました

けます。撮影者のコメントとともに、ぜひお楽しみください。

慣れた風景を撮影したものが多く、いつもの日常を大切に思いながら過ごしている様子がうかがえました。応募作品は、すべて本学ウェブサイトでご覧いただけます。



最優秀賞の作品



1団体・2企業と連携協定(協約)を締結

本学は、仙台市社会福祉協議会、株式会社仙台村田製作所、大和リース株式会社と連携協定(協約)を締結しました。それぞれの目的や具体的な取り組みは以下の通りです。

仙台市社会福祉協議会
ボランティア活動への連携および協力の支援体制づくりに取り組みます。

株式会社仙台村田製作所
地域の福祉活動を支える人材育成や情報交換、災害に備えた事前の支援体制づくりに取り組みます。

株式会社大和リース
福利厚生面を充実化するための事業や調査、研究

先行して食品栄養学科・伊藤佳代子ゼミナールによる社員食堂のメニュー開発に携わっており、今後は心理学・教育・子育てなどの分野でも学術的に協力していきます。

大和リース株式会社
複合商業施設・プランチ仙台を活用した教育資源の提供

プランチ仙台の共有スペースを、教員による公開講座や学生の学外活動の場として活用していきます。

地域の学校に密着し 音楽の楽しさを 多くの人に伝えていきたい

サンリツ楽器
法人営業部/学校販売課
松浦 未希さん

音楽との出会いや大学での 学びについて教えてください。

私は小学生の頃から、ピアノやチューバ、合唱など、様々な音楽に親しむ機会に恵まれてきました。大学進学を考えたとき、音楽の歴史や作曲家の人生、曲への理解をもっと深めたいと思い、宮学の音楽科(作曲コース)に進みました。卒業制作で手掛けたのは、西條八十の詩にインスピレーションを受けた女声三部合唱の組曲です。初めて大作に挑戦したので大変でしたが、完成した曲を実際に演奏していたときの達成感は忘れられません。

現在の仕事内容を教えてください。

学校販売課に所属し、仙台市内の学校を対象に、鍵盤ハーモニカやリコーダーといった教材や、吹奏楽部で使用する楽器などを販売しています。入社後はまず先輩や上司に同行しながら仕事を覚え、徐々に担当エリアを引き継ぎ、現在は一人で訪問しています。



松浦さんは現在40校ほどを担当。楽器修理やピアノ調律などのセクションと連携して各校をサポートしている。



楽器メーカーごとに音色や形状、金額などが違うため、限定モデルや中古品などの勉強も欠かせない。



今でも休日には趣味で作曲を楽しむことがあるという松浦さん。主に詩からの着想を広げてメロディーを作る。

仕事のやりがい はどこにありますか？

当然ながら、楽器を演奏するのと売るとでは全然違います。販売スタッフはメーカーごとの特徴をしっかりと把握し、その楽器の魅力を的確に伝えなければなりません。これまで馴染みのなかった楽器について、研修などを通して幅広く勉強できることが今はとても楽しいです。

最も印象に残っている出来事は？

入社後、初めて管楽器をお客様に販売した時のことです。私が担当する高校の吹奏楽部の生徒さんから、フルートを購入したいというお話をいただきました。候補となるメーカーはいくつかあり、好みの音色かどうか、予算はどのくらいかなど、様々な点からご検討いただきました。それまでは学校にあった楽器を使用していたということでしたので、生徒さんにとっては初めてのマイフルート。お客様の音楽人生をより豊かにするサポートがで

きたことを嬉しく思います。

学生時代の学びや経験で 生かされていることはありますか？

作曲を学んだことで、楽譜を見れば曲の構成や難易度などがだいたい分かるようになりました。コンクールの時期になると、担当校の先生から演奏曲について相談を受けることもあるので、難易度に合う曲をピックアップしたり、曲の展開や特徴を説明したりといったアドバイスができるのは自分の強みです。

これからの目標は？

まずは楽器の知識をしっかりと蓄えて、一人でも様々なことに対応できるようにになりたいです。また、担当校の先生方とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築くことで、きめ細かいニーズに応えられる販売のプロになりたいと思っています。

Profile 松浦 未希さん

宮城県名取市出身。聖ウルスラ学院英智高等学校卒業。2019年3月宮城学院女子大学学芸学部音楽科卒業。2021年6月にサンリツ楽器入社。学校販売課スタッフとして主に仙台市内の小・中・高校、大学などを担当し、楽器の販売や営業を行っている。

※撮影時のみマスクを外しました。